

令和7年度 事業計画書



特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺
ショートステイ オレンジタウン笠寺
オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター
特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ
ケアプランセンターオレンジ(居宅介護支援事業所)

1. はじめに

令和7年度は法人設立から12期目、事業開始から10期目を迎える。

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が令和5年度決算に基づく特別養護老人ホームの経営状況を分析・公表した。その結果によると、ユニット型ではサービス活動収益対サービス活動増減差額比率は4.9%（当法人は1.1%）、利用率は93.0%（オレンジタウン笠寺94.9%、オレンジタウン笠寺Ⅱ74.2%）、人件費率は62.6%（当法人は64.4%）、経費率は25.5%（当法人は26.8%）であった。令和5年度、当法人はオレンジタウン笠寺Ⅱが入居者定員を低減して運営したため、費用の割合が高くなっているとは言え、厳しい状況に変わりはない。また同リサーチの社会福祉法人の経営状況では、サービス活動収益対サービス活動増減差額比率は2.4%であった。

さらに人材確保の状況では、主たる事業が介護の社会福祉法人において、採用率は15.6%、離職率も15.6%であった。当法人も、人材確保と育成が喫緊の課題である。

事業領域ごとに様々な制度改定が行われるが、今年度も部分最適ではなく、グループ全体最適の視点で経営資源の選択と集中に向けての検討を継続していく。また中長期的な視点に立ち、複数年度で取り組みながら、組織基盤の強化と新たな事業創造へと推進していく。

2. 善常会ビジョン（令和3年度策定）

私たちは住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを目指します

3. 基本方針

（1）地域に根ざし、地域包括ケアシステムの一端を担う

重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができるよう、地域社会と連携して町づくりに参画していく。

（2）ICFモデルの視点に立ったケアの提供

利用者の生活歴や生活機能の把握に努め、「している“活動”」の向上を目指し、結果として「その方らしい生活」を提供していく。

4. 行動指針 —私たちの行動3か条—（令和1年度策定）

私たちはその人らしい暮らしをサポートします

私たちは常に温かく支えあうチームを目指します

私たちは地域と一緒にこの町をハッピーにします

5. 善常会グループ全体方針

①グループ全体最適の視点

各部門の部分最適を追求することなく、善常会グループ全体として高いパフォーマンスを発揮し、地域で役割を担って貢献していくことを目指します。

②働きがいのある職場づくり

一緒に働く仲間に敬意をもち、互いを尊重できる働きがいのある職場を目指します。ガバナンスの強化に取り組み、あらゆるハラスメントを許容しません。

③DX化の推進

現場の業務が円滑に遂行できる機器やシステムを導入し、ICTの利活用を推進するとともに、生産性向上を目指します。グループ内のファイルサーバーを情報システム室で一元管理し、サイバーセキュリティ対策を法令に従い強化します。

④人生の最終段階における適切な意思決定支援の推進

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等を踏まえ、患者・利用者本人の意思決定を支援すべくACPに取り組みます。

⑤虐待・不適切ケアの防止および身体的拘束の適正化

善常会グループは可能な限り身体的拘束を行わないことを方針とし、虐待や不適切ケアにつながる取り組みを推進します。そして患者・利用者のいのち・暮らし・尊厳を守り、支える医療、介護を提供します。

6. 主な運営方針

法人本部

当法人の各事業が円滑に運営できるよう本部機能の強化を図る。

なお本部機能については、医療法人財団善常会法人本部と協働し、全体最適の視点に立ち、効率的かつ効果的な運営を行う。

(1) 理念およびビジョンの浸透、事業計画の共有

善常会グループの方向性を共有する場として全従業員を対象とした場を設ける。

特に新しく善常会に仲間入りしたスタッフと、現任スタッフの交流の場を設け、相互に帰属意識を高めることを目的とする。また、善常会研究会の開催を継続する。

(2) ブランディング戦略と地域の連携強化

グループ・施設のロゴデザインの確立、パンフレットの刷新、広報誌の発行、地域に向けた健康啓発イベントを実施する。

(3) 人材育成と定着

・人事制度のフォローアップ

人事評価制度のブラッシュアップのためプロジェクトを実施する。また人事考課の考課者研修、面談研修をオンデマンド中心に継続する。

・教育体系の構築と階層別研修

グループ教育ビジョンに基づき、通年でのオンデマンド研修に加え、ワークショップを年4回開催する。

- ・働きがいのある職場づくりの推進
永年勤続表彰など福利厚生の充実に資する仕組みづくりを行う。
- ・人事マネジメントシステムの活用
辞令交付、処遇改善通知のペーパーレス化を図る。
ストレスチェックの電子化を実施する。

(4) 情報システム関連

- ・情報システムサポートの内製化
情報システム室の人員体制が整ったことで、4月より土日祝日も当番制でサポートできる体制を構築する。
- ・サイバーセキュリティ対策
サイバーテロに備え、グループ内のネットワークの見直しを行う。
医療機関向けセキュリティ BCP を基に、グループ全体のセキュリティ BCP を12月までに策定する。またセキュリティ BCP に関する教育、訓練を全職員対象に行う。
情報リテラシー教育を入職時、また定期的に全職員対象に行う。

拠点共通

各拠点共通での取り組みは以下のように計画する。

(1) 人材確保と定着

- ・人材確保
令和8年4月の新卒採用は介護職員2名程度を予定。また既に4名が内定済み。
中途採用は、看護職員2名、介護職員5名を確保し、体制強化を図る。
- ・人材の定着
職員間のコミュニケーションが取れるように集合研修の場を設け、互いに声をかけあえる職場を目指す。
アセッサーの指導による基本知識・技術の統一化を図り、多職種間でも同一認識で活発に意見交換のできる職場を作っていく。
- ・教育体系の構築と階層別研修
ユニットリーダーの集いの場を月1回開催し、自律したユニット運営ができるようリーダーの在り方や、あるべきユニットの姿を学び、育む環境をつくる。
また感染対策、事故発生防止、身体拘束防止、虐待防止をはじめ、施設運営に必要な研修を適切に実施する。
- ・職員手帳（ハウスルール）とマニュアル類の見直し
現状のハウスルールやマニュアル類の内容の更新、修正を行う。定着を図るため、各フロアに設置するなど見える化を行い、日常的に使用する。

(2) 自然災害および感染症、情報セキュリティ対策

- ・BCPの策定と運用
大規模災害や感染症が発生した場合であっても、必要なサービスが継続的に提供できるよう「BCP（事業継続計画）」に基づき、研修及び訓練を実施する。

- **非常用自家発電設備の設置**

大規模災害発災時にも、事業継続ができるよう非常用自家発電設備（防災用発電装置および屋外燃料油庫 9500）を整備する。非常用自家発電設備整備事業令和 6 年度 2 次協議申請中。（予算：22,000 千円うち 11,594 千円は補助金予定）

- **非常用備蓄の更新**

非常食の更新を適宜実施する。（予算：131 千円）

(3) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

- **生産性向上の推進**

介護サービスの質の確保と、職員の負担軽減が「無理せず、無駄なく、ムラなく」できる方策を検討する。その上で、利用者の個別性に合わせたサービスの標準化を目指す。

- **口腔衛生への取り組み**

歯科衛生士（非常勤）を中心とした多職種協働での口腔ケアへの取り組みを強化し、経口機能の維持、肺炎予防、食べることの楽しみをもった生活の実現をするため、7 月に口腔衛生管理加算Ⅱの取得を目指す。

- **暮らしの継続ができる 24 シートの活用**

「多職種で使える 24 シート」を運用するため委員会を発足する。利用者の暮らしが見える 24 シートの作り方、使い方などマニュアルを見直し、24 シートに対する職員の意識統一を図る。

- **地域で暮らすことを意識した活動**

ご家族と安心して買い物や食事に出かけられるよう、ご家族へ介助指導を行う。また外出機会を増やし、地域で暮らすことを意識した活動へつなげていく。

- **科学的介護の推進**

日常的にリハビリの視点、技術を生かしたケアができることを目指し、多職種でアウトカムを出し、科学的介護に反映できる施設を目指す。

科学的介護推進体制加算に関する業務削減を図るとともに、オレンジタウン笠寺も 7 月からの加算取得を目指す。

(4) 地域社会との共生

- **サロンの開催**

引き続き地域に気軽に活用いただける場所、人材を目指す。

- **地域とのつながり**

10 年目を迎える「むつきの駅」をはじめ、積極的に地域活動へ参加し、まちづくりの一助となる。

オレンジタウン笠寺

(1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

・看護職員の24時間配置

医療的ケアへの取り組みは一定の成果が得られるようになった。一方、地域の医療体制の変化により、当施設へ求められる役割も変化してきている。

医療的ケアの充実を図るため、配置医の所属する連携医療機関と協議の上、経鼻経管栄養の受け入れの検討を進める。

(2) 安定した経営基盤の確立

・オレンジタウン笠寺拠点資金収支予算（単位：千円）

事業活動収入計	579,981	事業活動外収入	6,187
事業活動支出計	513,066	事業活動外支出	61,220
事業活動資金収支差額	66,915	事業活動外資金収支差額	△55,033
（対収入比）	11.5%	当期資金収支差額合計	11,882

① 特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺（定員80名）

利用者の医療ニーズの高まりに伴う入院者数を考慮した稼働計画とした。

・稼働計画

利用者数／日	77.6人	稼働率	97.0%
年間延べ利用者数	28,324人	1日単価	15,911円

・資金収支予算（単位：千円）

事業活動収入計	452,614	事業活動外収入	5,036
事業活動支出計	405,195	事業活動外支出	46,070
事業活動資金収支差額	47,419	事業活動外資金収支差額	△41,034
（対収入比）	10.5%	当期資金収支差額合計	6,385

② ショートステイオレンジタウン笠寺（定員10名）

在宅での暮らしを支える役割から、原則として長期間のショートステイの受入れは行わず、真の在宅支援ができるよう運営していく。また、特養利用者が入院された際は、空床のショートステイ利用を促進する。

・稼働計画

利用者数／日	9.3人	稼働率	93.0%
年間延べ利用者数	3,395人	1日単価	15,635円

・資金収支予算（単位：千円）

事業活動収入計	53,818	事業活動外収入	631
事業活動支出計	46,351	事業活動外支出	6,616
事業活動資金収支差額	7,467	事業活動外資金収支差額	△5,985
（対収入比）	13.9%	当期資金収支差額合計	1,482

③ オレンジタウン笠寺デイサービスセンター（定員 30 名）

リハビリ専門職による機能訓練、選べるアクティビティといった活動を強化し、他事業所との差別化を目指す。

・稼働計画

利用者数	介護	18.7 人	1 日単価	介護	11,199 円
合計 23 人/日	総合	4.3 人		総合	6,399 円
年間延べ利用者数	7,153 人				

・資金収支予算（単位：千円）

事業活動収入計	73,549	事業活動外収入	520
事業活動支出計	61,520	事業活動外支出	8,534
事業活動資金収支差額	12,029	事業活動外資金収支差額	△8,014
（対収入比）	16.4%	当期資金収支差額合計	4,015

オレンジタウン笠寺Ⅱ

（1）利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

・暮らしまるごと生活リハビリ

その人らしい暮らしの継続ができるよう、ADLのみならず、趣味やその方のユニットでの役割など IADL にも着目し、生活のすべてがリハビリであるという想いを多職種で共有し、協働するため、新たに委員会を設置する。その中でノーリフティング活動、個々に合わせた趣味活動などに取り組む。

・夜勤人員の増員

現在、夜勤帯は 4フロア 4名の職員配置をしているが、職員の休憩時間の確保、負担軽減を図るとともに、夜勤帯のより安全なケア提供のため、1名加配する。開始時期は人材確保が出来次第とする。実施後は、宿直勤務を廃止する。

（2）安定した経営基盤の確立

・オレンジタウン笠寺Ⅱ拠点

① 特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺（定員 80 名）

利用者の医療ニーズの高まりに伴う入院者数を考慮した稼働計画とした。

・稼働計画

利用者数/日	77.6 人	稼働率	97.0%
年間延べ利用者数	28,324 人	1 日単価	15,577 円

・資金収支予算（単位：千円）

事業活動収入計	443,627	事業活動外収入	5,409
事業活動支出計	400,555	事業活動外支出	40,850
事業活動資金収支差額	43,072	事業活動外資金収支差額	△35,441
（対収入比）	9.7%	当期資金収支差額合計	7,631

② 居宅介護支援事業所ケアプランセンターオレンジ（設置予定）

必要な人員を確保し、できるだけ早期の開設を目指す。